

令和 6年 11月 12日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	第19回長野県地方自治政策課題研修会
研修・視察実施場所	南箕輪村役場3階 第1・2会議室
研修・視察の期間	令和6年11月12日 13:15～15:15
研修・視察の成果等	講師は山口大学大学院創生科学研究科の瀧本浩一准教授で「地域の防災・減災力をどう底上げするか?～産官民の役割について考える～」と題して、県庁で行われた講演をオンラインで繋いで視聴した。 冒頭に自主防災会や防災士が地域で役立っているのかと投げかけており、防災士の資格取得に自治体で助成しているが、災害時に見たことが無いと話し始めた。地域における防災が間違っていて、本来は自助をしっかり備えてから、共助や公助を考える必要があると訴えていた。自分を守る事ができて共助と公助が成り立つのだが、近年の防災は自助が中途半端な状態で、防災訓練などを行っており、ハザードマップを利用した防災ができていないことも指摘しており、ハザードマップを配布しても翌日には捨てられ、どこにあるか分からない例が多々発生しており、訓練などに活用されていない。また、地域で防災マップやまち歩きなどで、住んでいる地域の特徴を調べてないまま訓練しても、訓練の意味合いが違ってくる。

	南箕輪村にも自主防災会や防災士会があるが、機能しているかと言えは疑問がある。 地域の防災力向上は訓練が一番だと勘違いしている傾向がある。また、マンネリ化や人手不足などもあり、防災力が低下していると言える。 今回の講演を視聴して地域防災は特別なことではなく、地区行事に加味して防災を行い、身近なところから自助の備えを整えることの大切さを改めて感じさせてもらった。 また、耐震化やガラスの飛散防止、家具の転倒防止など家を守る備えができることで、防災力は飛躍的に向上できることを、講師の先生が念入りに訴えていた。 南箕輪村の防災力向上に、今回の研修が役立つことになると思われる。
--	---

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。